

## 注

引証資料で明示しにくいものは注としてその番号については全体を通して付した。

### 序論

- (1) 丹岳野必大千里／男浩元浩閱『本朝食鑑』（巻之四）、〈備〉鶉飼家箱番号:檜第 10 号、国文学研究資料館 鶉飼文庫。全体的に拡大して使用した。

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200020572/viewer/218>. 2022年8月22日アクセス。

- (2) 同上。

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200020572/viewer/219>. 2022年8月22日アクセス。

### 第1章 貝原益軒の生涯

- (3) 「杖立紀行」（杖立温泉）については『益軒全集』も収載されていないが、加藤一純編『扶桑残玉集』（十七）に収載され、「新古典籍総合データベース」で公開されている。

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100028608/viewer/1087> から

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100028608/viewer/1101> まで 2022年9月11日アクセス。



なお、『扶桑残玉集』（十七）では「杖植紀行」の表記で、「新古典籍総合データベー

ス」での読み方は「じょうしょくきこう」となっている。熊本県にある「杖立温泉」は「つえたておんせん」と読み、益軒当時の表記は「杖植」であったようだ。今回はこの資料の分析は行わなかった。この資料については板坂耀子「貝原益軒の紀行文—その製作状況と個々の作品について」(『語文研究』第34号、九州大学国語国文学会、1972年12月)で論じられており、「後の作品と共通する記述が多い」(p.33)、「益軒の初期の紀行で残っているのはこの一作のみ」(p.33)、「『杖植紀行』で見ると、紀行文における益軒の姿勢、特色といったものには、当初からずっとさしたる変化はなかったようである。」(p.33)と述べている。

(4) 「諸國温泉功能鑑」(東京都立図書館 HP より)

<http://archive.library.metro.tokyo.jp/da/download?id=000000001400041003&size=org&type=image&file=%2F%E7%95%AA%E4%BB%98%2F7706-D001.jpg> 1. 2019年10月24日アクセス。

(5) 「諸國温泉功能鑑」についての出版年は不詳。あるいは19世紀とするものが多い。

石川理夫「江戸時代の温泉番付にみる温泉地の受容と変遷」(『温泉地域研究』第27号、温泉地域学会、2016年9月、pp.11-22)を参照。

## 第2章 『養生訓』の成立過程

(6) 丹岳野必大千里／男浩元浩閱『本朝食鑑』(巻之一～一二)、〈備〉鵜飼家箱番号:檜第10号、国文学研究資料館 鵜飼文庫。全体的に拡大して使用した。

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200020572/viewer/16>. 2022年8月22日アクセス。

「この書の大意は、民の日常生活に用いる食物の好悪について弁別することにある」(人見必大 a xv)

(7) 同上。

## 第3章 『養生訓』の構成

(8) 瀧澤利行には『健康文化論』(大修館書店、1998年2月)、『養生論の思想』(世織書房、2003年6月)の研究がある。また、瀧澤には2つの博士論文がある。

「近代日本における養生思想の展開」



東京大学、博士（教育学）、甲第 9306 号、1992 年 3 月 18 日  
「養生思想の展開とその公衆衛生的機能—健康文化形成のための理論的基礎」  
大阪大学、博士（医学）、乙第 7779 号、1999 年 5 月 28 日  
※上段の博士論文の著者名は「滝沢利行」、下段の博士論文の著者名は「瀧澤利行」  
となっている。

(9) 伊藤ちぢ代「貝原益軒『養生訓』の「健康」観をめぐって」（『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』第 6 号、日本大学大学院総合社会情報研究科、2005 年 7 月、pp.128-137）などがある。

(10) 吉田豊編訳『商家の家訓』（徳間書店、1973 年 9 月）には寂照軒頓宮咲月『家内用心集（抄）』が収載され、そこでは「商人用心の事」のみが現代語に訳されている。

(11) 三井家の「養生式」については三井文庫「1726(享保 11) 作成者：大元方 原所蔵者：京本店 敷 注記(草稿)」として日付のはっきりしたものがあるため、この日付を記した。成立年不明ものが 2 つある。

[https://jmapps.ne.jp/mitsuibunko/list.html?keywords=%E9%A4%8A%E7%94%9F%E5%BC%8F&kwd\\_and\\_or=and&bunrui=&title=&f1=&f11=&f12=&f2=&list\\_type=LLA001&list\\_count=20&title\\_query=yes](https://jmapps.ne.jp/mitsuibunko/list.html?keywords=%E9%A4%8A%E7%94%9F%E5%BC%8F&kwd_and_or=and&bunrui=&title=&f1=&f11=&f12=&f2=&list_type=LLA001&list_count=20&title_query=yes). 2023 年 2 月 18 日アクセス。

この文献について新村拓『健康の社会史—養生、衛生から健康増進へ』（2006）の注釈では中田易直「近世町人の保健衛生思想」『歴史教育』第 2 巻第 1 号、1954 年）を示しているが、実際には第 2 巻第 11 号である。

(12) 高橋敏（2021）。「寺子屋：驚くべき江戸時代の教育力」、  
<https://www.nippon.com/ja/japan-topics/g01005/>. 2022 年 8 月 28 日アクセス。

#### 第 4 章 奈良茶

(13) 斎藤長秋編（1834-1836）. 『江戸名所図会』、五、須原屋茂兵衛。斎藤長秋編（1893）. 『江戸名所図会』、五、博文館。（国立国会図書館 HP より）

<https://dl.ndl.go.jp/pid/994934/1/3>. 2023 年 3 月 7 日アクセス。

(14) 楊彪「『養生訓』における「茶粥」と「汲み湯」の記述に関する一考察」（『武蔵野学院大学大学院研究紀要』、第 12 輯、武蔵野学院大学、2019 年 3 月、p.107）では「『大和本草』に奈良茶が掲載されていないと述べたが、その後再度の調査を行い、『大和本草』の第 4 巻に「粥」、第 10 巻の「茶」「飧食」の項目中に「奈良茶」の掲載を確認した。なお、筆者がこれまで奈良茶に関する先行研究を調査した限りにおいてこれを指摘したのはなかった。

(15) 丹岳野必大千里／男浩元浩関『本朝食鑑』（巻之一～一二）、〈備〉鶴飼家箱番号：檜第 10 号、国文学研究資料館 鶴飼文庫。全体的に一部拡大して使用した。

<http://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200020572/viewer/44>. 2022 年 8 月 22 日アクセス。

- (16) 丹岳野必大千里／男浩元浩『本朝食鑑』（巻之一～一二）、〈備〉鶴飼家箱番号:檜第10号、国文学研究資料館 鶴飼文庫。全体的に一部拡大して使用した。  
<http://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200020572/viewer/21911>. 2022年8月22日アクセス。一部拡大して使用した。
- (17) 同上。  
<http://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200020572/viewer/21911>. 2022年8月22日アクセス。一部拡大して使用した。
- (18) 同上。  
<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200020572/viewer/42>. 2023年2月9日アクセス。一部拡大して使用した。
- (19) 同上。  
<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200020572/viewer/43>. 2023年2月9日アクセス。一部拡大して使用した。
- (20) 丹岳野必大千里／男浩元浩『本朝食鑑』（巻之一～十二）、〈備〉鶴飼家箱番号:檜第10号、国文学研究資料館 鶴飼文庫。一部拡大して使用した。  
<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200020572/viewer/96>. 2023年2月27日アクセス。
- (21) 楊彪「文献に現れた茶粥等の表現一覧表（1）江戸時代」（佐々木隆・楊彪「江戸の食文化—奈良茶を巡って」『高齢社会と地域』第4号、高齢社会研究会、2022年12月、pp.3-6）に掲載したものに加筆した。
- (22) 中村学園の貝原益軒アーカイブのより貝原益軒『大和本草』（和装本は九州大学附属図書館所蔵）が公開されており、参考にした。  
<https://www.nakamura-u.ac.jp/institute/media/library/kaibara/pdf/b04.pdf>. 2023年2月18日アクセス。
- (23) 楊彪「文献に現れた茶粥等の表現一覧表（2）現代の事典の取り扱い」（佐々木隆・楊彪「江戸の食文化—奈良茶を巡って」『高齢社会と地域』第4号、高齢社会研究会、2022年12月、pp.6-11）に掲載したものに加筆した。
- (24) 「貝原益軒（かいばらえきけん）の『南遊紀行』（ミニ岸和田再発見第28弾）  
<https://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/toshokan/mini-28.html>. 2023年2月11日アクセス。

## 第5章 温泉

- (25) 八隅蘆庵（1710）.『旅行用心集』、須原屋伊八。（早稲田大学図書館 HP より）  
[https://archive.wul.waseda.ac.jp/kosho/bunko06/bunko06\\_02230/bunko06\\_02230.pdf](https://archive.wul.waseda.ac.jp/kosho/bunko06/bunko06_02230/bunko06_02230.pdf).  
2022年8月24日アクセス。全体的に拡大して使用した。
- (26) 松田忠徳（2020）.「読む!?温泉 第12話 日本初の温泉化学者宇田川榕菴の“発見、”（心地よい湯へ、ご案内いたします。“温泉教授”松田忠徳の毎日が温泉.com）

<https://www.mainichigaonsen.com/blog/archives/2775>. 2022年9月27日アクセス。

(27) 八隅蘆庵 (1710). 『旅行用心集』、須原屋伊八。(早稲田大学図書館 HP より)

[https://archive.wul.waseda.ac.jp/kosho/bunko06/bunko06\\_02230/bunko06\\_02230.pdf](https://archive.wul.waseda.ac.jp/kosho/bunko06/bunko06_02230/bunko06_02230.pdf).

2022年8月24日アクセス。全体的に拡大して使用した。

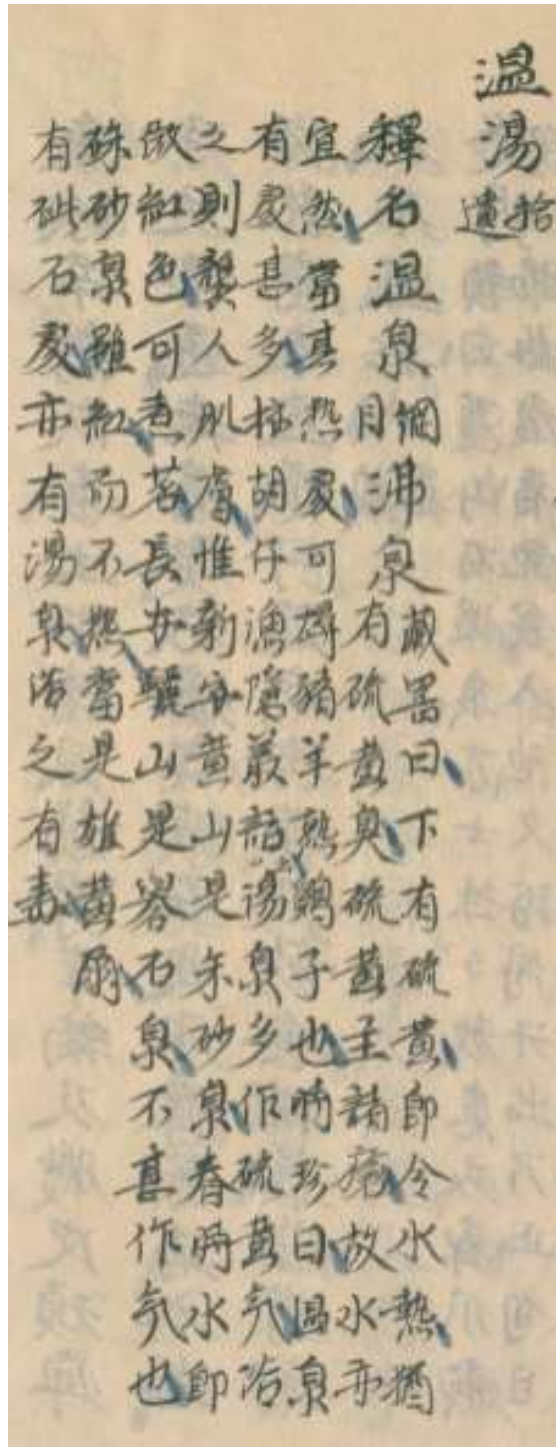
(28) 李時珍『本草綱目』については国立国会図書館HPより閲覧ができる。該当箇所は以下の通り。

本草綱目卷 1,2,4-11,14-28,36-52 序 1 卷首 1 卷 [5]

著者：明李時珍撰

出版年月日：江戸刊

請求記号：特 1-894



<https://dl.ndl.go.jp/pid/2556412/1/19>. 2022年9月27日アクセス。

(29) 「杖立紀行」(杖立温泉)は加藤一純編『扶桑残玉集』(十七)に収載され、「新古典籍総合データベース」で公開されている。

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100028608/viewer/1087> から

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100028608/viewer/1101> まで 2023年2月11日アクセス。

(30) 「有馬温泉観光協会公式サイト」

<http://www.arima-onsen.com/history.html>. 2018年11月5日アクセス。

(31) 同上。

(32) 「諸國温泉功能鑑」(東京都立図書館 HP より)

<http://archive.library.metro.tokyo.jp/da/download?id=0000000014-00041003&size=org&type=image&file=%2F%E7%95%AA%E4%BB%98%2F7706-D001.jpg>.

2018年10月1日アクセス。全体的に拡大して使用した。

(33) 原南陽(昌克)『温泉考』(別名:温泉小言)(京都大学貴重資料デジタルアーカイブより)

<https://rmda.kulib.kyotou.ac.jp/item/rb00001453#c=0&m=0&s=0&cv=50&r=0&xywh=-623%2C-1%2C7725%2C4320>.

<https://rmda.kulib.kyotou.ac.jp/item/rb00001453#c=0&m=0&s=0&cv=52&r=0&xywh=-623%2C-1%2C7725%2C4320>. 2022年9月11日アクセス。全体的に拡大して使用した。50コマ~52コマを使用。

(34) 『有馬山温泉小鑑』(1685)の現代語意識では武蔵野学院大学の高橋恵美子教授の指導の下、筆者が現代文とした。なお、原文は国立国会図書館 HP より検索した。

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2539743>. 2018年6月24日アクセス。

(35) 平活斎『温泉小説』(1746) 京都大学貴重資料デジタルアーカイブより

<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00001456#c=0&m=0&s=0&cv=15&r=0&xywh=-6407%2C-6%2C18428%2C4159>. 2022年10月18日アクセス。

(36) 国立国会図書館ホームページ

<https://ndlonline.ndl.go.jp/#!/search?searchCode=SIMPLE&lang=jp&keyword=%E6%9C%89%E9%A6%AC%E6%B9%AF%E5%B1%B1%E8%A8%98>.

2022年10月2日アクセス。



京都大学貴重資料デジタルアーカイブ

<https://rmda.kulib.kyotou.ac.jp/item/rb00000805#c=0&m=0&s=0&cv=0&r=0&xywh=-7990%2C-208%2C21595%2C4159>. 2022年10月2日アクセス。

有馬湯山記	
レコードID	RB00000805
出版年	1631
タイトルヨミ	アリマユノヤマノキ
別タイトル	ローマ字タイトル: Arima yunoyama no ki
著者	日原益軒(篤信)著
冊数	1
出版年(和暦)	寛永8年
形態・版情報	刊 和小
写刊の別	刊
注記	国文学研究資料館「日本語の歴史的典拠の国際共同研究ネットワーク構築計画」により電子化(平成29年度)
請求記号	ア/28
登録番号	183386
作成年度	2017

京都大学蔵書検索

[https://kuline.kulib.kyotou.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=v3search\\_view\\_main\\_init&op\\_param=gcattp\\_flag%3Dall%26holar\\_flag%3Dall%26hollc%3D%26srhclm1%3Dwords%26valclm1%3D%26optclm1%3DAND%26srhclm2%3Dtitle%26valclm2%3D%26optclm2%3DAND%26srhclm3%3Dauth%26valclm3%3D%26optclm3%3DAND%26srhclm4%3Dpub%26valclm4%3D%26year%3D%26year2%3D%26isbn\\_issn%3D%26cntry%3D%26ncid%3DBB11581573%26lang%3D%26bibid%3D%26cls%3](https://kuline.kulib.kyotou.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=v3search_view_main_init&op_param=gcattp_flag%3Dall%26holar_flag%3Dall%26hollc%3D%26srhclm1%3Dwords%26valclm1%3D%26optclm1%3DAND%26srhclm2%3Dtitle%26valclm2%3D%26optclm2%3DAND%26srhclm3%3Dauth%26valclm3%3D%26optclm3%3DAND%26srhclm4%3Dpub%26valclm4%3D%26year%3D%26year2%3D%26isbn_issn%3D%26cntry%3D%26ncid%3DBB11581573%26lang%3D%26bibid%3D%26cls%3)

D%26rgtn%3D%26holph%3D%26lenid%3D%26cln%3D%26sortkey%3D%26stitle%252Cs  
year%252Csauth%252FASC%252CDESC%252CASC%26listcnt%3D10%26startpos%  
3D%26fromDsp%3Dcatsrd%26searchDsp%3Dcatsrd%26initFlg%3D\_RESULT\_SET%  
26hitcnt%3D%26searchsql%3D%26combsearch%3D%26searchhis%3D%26akey%3D  
%26sdi%3D%26fct\_gcattp%3D%26fct\_auth%3D%26fct\_pub%3D%26fct\_year%3D%26  
fct\_cls%3D%26fct\_sh%3D%26fct\_lang%3D%26fct\_holar%3D%26fct\_campus%3D%26  
fct\_tag%3D%26fct\_range\_year%3D%26fct\_stamp%3D%26fct\_user1%3D%26fct\_user2  
%3D%26fct\_user3%3D%26fct\_user4%3D%26fct\_user5%3D%26fct\_holstat%3D%26wo  
rds%3D%26title%3D%26auth%3D%26pub%3D%26sh%3D%26rev%3D%26tag%3D%  
26user1%3D%26user2%3D%26user3%3D%26user4%3D%26user5%3D%26holstat%3  
D%26hollc\_1%3D%26holph\_1%3D%26holsc\_1%3D%26year\_y%3D%26year\_m%3D%26  
year\_d%3D&block\_id=251&tab\_num=0&search\_mode=detail#catdbl-BB04409021.

2022年10月2日アクセス。

## 書誌詳細

タイトル/編著者等 有馬山温泉記 / 貝原篤信著  
アリヤマ オンセンキ  
出版情報 京：柳枝軒，寶永8[1711]  
形態情報 1冊；18cm  
別タイトル その他のタイトル:有馬山記  
アリマ ユノヤマ ノ キ  
別タイトル その他のタイトル:有馬山道記  
アリマ ユノヤマ ミチ ノ キ  
注記 和漢古書につき記述対象資料毎に書誌レコード作成  
注記 見返し of 書名:有馬山記  
注記 題簽 of 書名:有馬山道記  
注記 刊記に「茨城多左衛門蔵版」とあり  
注記 丁付: 2, 59, 60/80,(60丁目飛丁), 83丁  
本文言語 日本語 Japanese  
著者標目 貝原, 益軒(1630-1714)||カイバラ, エキケン <AU00017473>  
分類 日本 NDC8:291.64  
NCID BB11581573

小澤清躬『有馬温泉史話』(1938)における「寛永八年」(1631)の記述及び京都大学貴重資料デジタルアーカイブにおける「1631年」という出版年の記述については筆者が博士論文の指導を受けている際、研究指導教員の佐々木隆教授より情報を提供して戴いた。なお、佐々木教授の見解では「寛永八年」となっている原因として、「寶永八年」と読み間違えたのではないかというものだ。「寶永八年」=「宝永八年」は1711年であり、一般的に『有馬山温泉記』(1711)として認知されている。「宝」の旧字「寶」と「寛」を読み間違えたこともあるが、不幸であることに「寛永」と「宝永」が江戸時代の元号として共に存在していたことも混乱した原因ではないかというものだ。しかし、貝原益軒の生年が寛永7年(1630)であることを確認すればこのようなことは起きない。こ



れまでの先行研究等の資料においても、小澤清躬『有馬温泉史話』(1938) 以外には『有馬湯山記』(1631) としているものはなかったことから、注記にある「国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」により電子化(平成 29 年度)」とあるが、出版年の定めを小澤清躬『有馬温泉史話』(1938) とした可能性が高い。京都大学貴重資料デジタルアーカイブはこれらの記述をもとに出版年を定めたのではないと思われる。なお、同じ京都大学の蔵書検索では「寶永 8 年」(1711) となっている。他の大学図書館等では再版や増版の出版年であるため「寶永 8 年」以降の出版年となっている。

## 結論

注なし

## 貝原益軒に関する年表

(37) 「貝原益軒に関する年表」については、筆者が以前作成した「貝原益軒の温泉訪問とおもな著作物の年表」(楊 b 109-110) をもとにして貝原益軒に関する事項を加えて、以下の資料をもとに作成した。

益軒会編 a (1911). 「益軒先生年譜」、『益軒全集』、卷之一、益軒全集刊行部。

溝口周道 (2002). 「近世の観光に与えた貝原益軒の紀行文の特徴」、『ランドスケープ研究』、第 65 卷第 5 号、日本造園学会。

福岡市博物館・特別展示解説「貝原益軒没後 300 年・亀井南冥没後 200 年記念 益軒・南冥と筑前の学者たち 2014 年 12 月 9 日～2015 年 1 月 18 日 特別展示室 B」(貝原益軒略年譜 表 1)。なお、頁表記はない。

[http://museum.city.fukuoka.jp/archives/exhibition/2014/ekiken\\_nanmei/pdf/ekiken\\_nanmei-leaflet.pdf](http://museum.city.fukuoka.jp/archives/exhibition/2014/ekiken_nanmei/pdf/ekiken_nanmei-leaflet.pdf). 2019 年 10 月 24 日アクセス。

※各図書館 HP よりの画像の引用についてはそれぞれの図書館 HP に記載の画像の二次利用等の方針に基づき掲載した。